

令和元年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

※ 朝(6:00から9:59時まで)、昼(10:00から13:59まで)
 夕方(14:00から17:59まで)、夜(18:00から21:59まで)、
 深夜(22:00から1:59まで)、早朝(2:00時から5:59まで)

件数	月	発生時間	時間区分※	建物種類	感知したタイプ	出火場所	設置場所(鳴動場所)	出火原因	覚知者	原因概要	発見・通報・状況等
1	1	21:14	夜	アパート・マンション等	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	鍋の空焚き	3階一室台所で飲酒した居住者が調理中に居眠りをした際、鍋から発生した煙で住警器が作動し、隣接居住者がその警報音に気づき119番通報したものの。消防隊の活動等による物音で居住者が眠りから覚め、火災に至らなかったものである。
2	1	8:30	朝	アパート・マンション等	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	鍋の空焚き	居住者が鍋に火をかけたことを忘れてしまい煙が発生。その後、住宅用火災警報器が発報、居住者により鍋に水が入れられ消火に至る。通報については近隣住民により消防機関へ通報されたものである。早期に鍋の空焚きを発見することができたため、火災には至らなかった事例である。
3	1	20:10	夜	共同住宅	煙	台所	寝室	たばこ	居住者	たばこの消え残りの火種が堆積していた吸い殻に着火したものの。	この日に限って水を使用せずにたばこを消し、吸い殻を灰皿に積んで外出。帰宅したところ、玄関で住宅用火災警報器の鳴動を確認。居室内が白煙で充満し、台所付近から立ち上がる白煙を確認したため、近くにあった食器を用いて水をかけて消火。通報者は、仕事から帰宅し共同住宅の2階の自室に入ったところ、異臭と若干の煙たさを感じている。自室を確認後共用部分の通路に出たところ住宅用火災警報器の微かな鳴動を聞き、鳴動個所を確認するも特定できず、管理会社も不在であったことから119番通報に至る。
4	1	13時50分頃	昼	アパート・マンション等	煙式	台所	就寝室	こんろ	隣人	鍋の空焚き	居住者は片手鍋に牛乳を入れガステーブルにて加熱していたことを忘れ、同共同住宅の隣に住む息子の部屋に向かう。その後、焦げた臭いと住宅用火災警報器の音に気付いた息子が廊下に出ると、隣の玄関ドアから煙が出ていたため消防へ通報したものの。消防隊が当該居室を見分すると、ガステーブルの上に内容物の牛乳が焦げた片手鍋があり、ガステーブルの火は安全装置が作動し消火されていた。
5	1	16:23	夕方	戸建住宅	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	鍋の空焚き	居住者が、台所のIHクッキングヒーターで蕎麦を茹でたまま入浴。鍋の中のゆで汁が蒸発し、蕎麦が炭化したことにより煙が発生。台所に設置してある住宅用火災警報器(煙式)が鳴動したことにより、2階の同居者が警報音に気づき、IHクッキングヒーターのスイッチを切り火災には至らなかったものの。
6	1	11:00	昼	戸建住宅	熱式	居間	その他(居間・不明を含む)	その他(不明を含む。)	居住者	使用済みのマッチを書類とゴミが入ったゴミ箱に捨てその場を離れたことにより、残り火が書類等に引火し煙と炎が発生したものの。	1階厨房(出火場所の直下部分)にて作業中の居住者(妻)が住宅用火災警報器(非連動型)の鳴動を確認、鳴動している2階居間(事務室として使用)のドアを開けたところゴミ箱から煙と炎が発生していたため、粉末消火器にて初期消火を実施、消火したものの。その後消防へ通報した。
7	2	15:59	夕方	アパート・マンション等	煙式	居間	その他(居間・不明を含む)	ストーブ	居住者	ストーブ上に物を放置。	ストーブの上にプラスチック製の卓上ほうきを置き忘れ、気づいた時には住警器の発報しており、ストーブのスイッチを切ったため、出火にいたらなかったものの。
8	2	7:45	朝	戸建住宅	煙式	台所	台所	こんろ	緊急通報システム	コンロにて魚を焼き、煙が発生したものの	居住者が台所にてコンロを使用して焼き魚をフライパンにて調理後、蓋を開いたところ煙が充満し、台所に設置してある緊急通報システムの煙センサーが発報し、消防へ通報が入電され、消防隊が出動したものの。消防隊到着時には、既に煙の充満も収まっていたため、火災には至らなかった事例である。

令和元年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

※ 朝(6:00から9:59時まで)、昼(10:00から13:59まで)
 夕方(14:00から17:59まで)、夜(18:00から21:59まで)、
 深夜(22:00から1:59まで)、早朝(2:00時から5:59まで)

件数	月	発生時間	時間区分※	建物種類	感知したタイプ	出火場所	設置場所(鳴動場所)	出火原因	覚知者	原因概要	発見・通報・状況等
9	2	14:26	夕方	アパート・マンション等	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	ガスコンロの消し忘れ	居住者がガスコンロで魚の煮物をするために鍋に火をかけた後、1時間ほどテレビを観ていた。その後、警報器が発報し、調理中であることを思い出し、火を止め、鍋をシンクに移動したことにより火災にいたらなかったもの。
10	2	13:00	昼	アパート・マンション等	煙式	就寢室	就寢室	たばこ	居住者	喫煙時に、たばこの灰が布団上に落下し、出火したものを。	居住者が、住宅用火災警報器の警報音を聞き、警報音の鳴る寢室へ行くと室内が煙で充滿しているのを確認し町役場に電話連絡する。その後、町役場から119番通報があり覚知したものを。 消防隊到着時、居室内に煙が充滿し、布団が無煙燃焼している状態であった。
11	2	18:45	夜	共同住宅	煙	台所	台所	こんろ	居住者	てんぷら油の過熱放置(非火災)	18時35分頃、居住者は調理のため、てんぷら鍋にててんぷら油を鍋底から約1cm溜め、3口ガスコンロにて加熱、その場を離れ約10分後に白煙が発生、台所に設置していた煙式住宅用火災警報器が発報した。 居間にいた居住者は、住宅用火災警報器の鳴動により気が付き、白煙が発生している鍋をシンクにひっくり返して蛇口から水をかけて温度を下げ、白煙の発生を抑制したものを。 その後、居住者が119番通報をしたものを。
12	2	4:00	早朝	戸建住宅	煙式	居間	就寢室	たばこ	居住者	たばこの不始末	発見・通報者は、2階自室で就寝していたところ、住警器の音で目を覚まし、室内に煙が充滿していたことからすぐに屋外に避難した。その後、3階のベランダに避難してきた兄弟から119通報を依頼されたため、自室に戻り携帯電話を持って再度屋外に避難し、119通報したものを。
13	2	17:55	夕方	戸建住宅	熱式	台所	台所	こんろ	居住者	使用不適	居住者が夕食の支度のため1階台所のガステーブルにて、電気グリル鍋本体を火に掛けたことにより、本体のプラスチック製の樹脂部分が溶融し出火、台所に設置していた住宅用火災警報器(熱式)が作動する。2階にいた居住者の息子が鳴動に気付き濡れたバスタオル及び水バケツで初期消火する。なお、普段は電気グリル鍋の深鍋のみをガステーブルで使用していたが、火災時には本体ごとガステーブルに掛けたもの。通報は、近隣の住民が居住者宅の台所の窓から火が見えたため通報したものを。
14	3	15:45	夕方	戸建住宅	熱式	居間	台所	ストーブ	居住者	居間に設置されている石炭ストーブの熱が台所天井付近に滞留し、台所に設置されていた熱式住宅用火災警報器が鳴動したものを。	台所に設置されていた熱式住宅用火災警報器が作動、鳴動音で気付いた居住者が消防に通報し、すぐにストーブを消火。 石炭ストーブの輻射熱で壁や室内煙突貫通部分が異常なほど熱せられていることに早期に気づいたため、火災に至らなかったものを。
15	3	0:35	深夜	アパート・マンション等	煙式	台所	就寢室	こんろ	隣人	鍋の空焚き	居住者が飲酒して帰宅した後、こんろに鍋をかけたまま寝てしまった。同じアパートの住人が住宅用火災警報器の警報音に気づき119番通報したものを。 消防隊到着時、室内に白煙が漂っていたが、こんろの火を消したことにより火災に至らなかったものを。
16	3	20:50	夜	アパート・マンション等	煙式	居間	就寢室	ストーブ	隣人	居間に設置されているポータブル石油ストーブを着火したところ、背面から炎があがった。	寢室に設置されていた煙式住宅用火災警報器が作動し、鳴動音で気づいた隣人が駆けつけ、自分の部屋にあった消火器と屋外に設置されていた消火器2本を使用し、初期消火を実施する。その後、スコップで雪を運び、ストーブにかけて消火。消防隊が到着時、完全消火していることを確認。

令和元年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

※ 朝(6:00から9:59時まで)、昼(10:00から13:59まで)
 夕方(14:00から17:59まで)、夜(18:00から21:59まで)、
 深夜(22:00から1:59まで)、早朝(2:00時から5:59まで)

件数	月	発生時間	時間区分※	建物種類	感知したタイプ	出火場所	設置場所(鳴動場所)	出火原因	覚知者	原因概要	発見・通報・状況等
17	3	19:30	夜	戸建住宅	煙式	居間	就寢室	その他(不明を含む。)	緊急通報システム	座布団に線香の火種が落下	居住者が、仏壇に線香を上げていた際、眠気によりその場を離れたとき、座布団に線香の火種を落させたが、それに気づかず寝込んでしまい、無炎燃焼から発生した煙で緊急通報装置連動の住宅用火災警報器(煙式)が作動、本人がその警報音に気づき、緩慢燃焼していた座布団を屋外に搬出、現場到着した消防隊が完全消火したものである。
18	3	15:05	夕方	その他	煙式	台所	その他(居間・不明を含む)	こんろ	居住者	鍋の空焚き	2階台所で鍋に火をかけたあとに、火をつけていたことを失念し、空焚き状態となり、台所の隣に設置されている住警報器が発報。居住者がそれに気づきコンロの火を消し、排煙作業を行い、火災に至らなかったもの。
19	3	13:03	昼	戸建住宅	煙式	台所	就寢室	こんろ	居住者	鍋の空焚き	こんろに鍋をかけたまま、その場を離れ、居間でテレビを見ていると、寢室に設置の住宅用火災警報器が充満した煙を感知し作動した。すぐにこんろの火を止めたため、火災に至らなかったもの。
20	4	23:35	深夜	その他	煙式	その他(調査中を含む。)	台所	その他(不明を含む。)	居住者	不明	住宅兼整骨院の診療室から出火した建物火災である。外出していた居住者が帰宅した際に住宅用火災警報器が作動しており、建物内部に煙が発生していたため、夫を呼び2階で就寝中の父親を救出し、119番通報した。早期に父親を救出し、119番通報したため父親に怪我はなく、部分焼に留めた事例である。
21	4	0:26	深夜	アパート・マンション等	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	ガスコンロの消し忘れ	居住者が2口ガスコンロを使用し、圧力鍋に食材を入れ調理中に、就寝してしまい内容物が炭化し、白煙が発生したことで台所に設置の住宅用火災警報器が発報した。同共同住宅居住者が警報音を確認した為、警察へ通報しその後、警察より一般加入にて消防覚知した事例である。なお、ガスコンロの火は警察により消されており、圧力鍋は屋外へ移動されていた。
22	4	0:45	深夜	その他	煙式	台所	その他(居間・不明を含む)	こんろ	居住者	ガスコンロで加熱中に睡眠してしまったことにより、鍋が空焚き状態となり煙が発生(非火災)	居住者が鍋をガスコンロにかけたまま睡眠してしまったため、徐々に煙が居室内に充満していき、居間の住宅用火災警報器が作動した。音を聞き目を覚ましたところ、部屋中に煙が充満していたため、急いでガスコンロを止めたことにより、火災に至らなかったもの。居住者は住宅用火災警報器の止め方がわからず、すぐに消防署へ通報。消防隊現着時には火災の危険性はなく、住宅内は排煙されていた。
23	4	19:00	夜	アパート・マンション等	煙式	台所	台所	こんろ	隣人	ガスコンロの消し忘れ	調理のため鍋に少量の油を入れてガスコンロに火を点けたまま迎えに来た友人と外出したため空焚き状態となり住警報器が鳴動。住警報器の警報音に気付いた隣人が119番通報し消防隊によりガスコンロを消火し、火災には至らなかったもの。
24	4	22:30	深夜	アパート・マンション等	不明	台所	その他(居間・不明を含む)	こんろ	隣人	ガスコンロによる鍋の過熱	焦げた臭いと住宅用火災警報器の音に気付いた隣人が、消防へ119番通報した。消防隊が室内に入ると住宅用火災警報器が発報し、白煙が充満していた。鍋の内容物が炭化していたため、ガスコンロの火を止め、窓を開放し換気を行った。居住者は室内にいたが、睡眠薬を服用しており意識が低下していたため、居住者の事案発生時の前後の行動は不明。(建物被害はなし)

令和元年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

※ 朝(6:00から9:59時まで)、昼(10:00から13:59まで)
 夕方(14:00から17:59まで)、夜(18:00から21:59まで)、
 深夜(22:00から1:59まで)、早朝(2:00時から5:59まで)

件数	月	発生時間	時間区分※	建物種類	感知したタイプ	出火場所	設置場所(鳴動場所)	出火原因	覚知者	原因概要	発見・通報・状況等
25	4	13:14	昼	アパート・マンション等	煙式	居間	台所	その他(不明を含む。)	居住者	トースターに可燃物が接触し着火	発見、通報及び初期消火者は、パソコンで作業中、住宅火災警報器の警報音で火災に気付いたもの。初期消火は、台所の水道水を掛け消火に至ったもの。その後、携帯電話で119番通報したものである。
26	4	21:48	夜	戸建住宅	煙式	台所	その他(居間・不明を含む)	こんろ	緊急通報システム	鍋の空焚き	緊急通報装置の火災警報器が発報、自動連動で警備会社(アルソック)へ通報され、その後、加入電話にて警備会社より連絡があり消防覚知に至る。消防隊現場到着後、関係者と接触。台所で調理鍋の空焚きにより火災警報器が発報したものと判明する。建物内部を確認し、空焚き以外に焼損は無く、台所周辺への延焼もなかった。
27	5	15:42	夕方	戸建住宅	煙式	その他(調査中を含む。)	台所	放火(疑いを含む。)	居住者	自損行為による放火	居住者の48歳女性が、自損目的により1階和室で衣類等に放火したところ、1階台所に設置されている都市ガス用ガス警報器複合型の住宅用火災警報器が作動、2階居間にいた母親が警報音に気づき、水道水で初期消火したものの。
28	5	9:15	朝	アパート・マンション等	煙式	居間	就寢室	たばこ	通行人	たばこの灰が座布団に落下	発見者である自衛隊職員が、隊員募集チラシを出火建物付近で配布中、住宅用火災警報器の音と焦げたような臭いがしたものを。当該住宅に近づき扉についているポストを開くと煙が出てきたため、近隣住民と共に確認し119番通報したものの。火災発見時、住民は外出中であった。
29	5	18:47	夜	戸建住宅	煙式	浴室	その他(居間・不明を含む)	その他(不明を含む。)	居住者	風呂釜の空焚き	5月17日13時00分頃、自宅の浴槽に水を入れ、同日18時25分頃にお風呂を沸かすため風呂釜タイマーを40に設定し点火。その後、同日18時45分頃、居間に設置していた住宅用火災警報器が発報し覚知。天井付近に煙が立ち込めており、風呂釜から火が出ているのを確認。家族により119番通報され、消防覚知に至る。消防隊現場到着までの間、自宅にあった消火器1本及びバケツにより5回ほど水をかけるも消火に至らず。洗濯機に繋がっているホースで風呂釜に水をかけて消火する。消防隊現場到着後、関係者と接触。風呂釜の空焚きにより住宅用火災警報器が発報したものと判明する。建物内部を確認し、空焚き以外に焼損は無く、周辺への延焼もなし。
30	5	14:37	夕方	アパート・マンション等	煙式	台所	その他(居間・不明を含む)	こんろ	緊急通報システム	ガスコンロに鍋をかけたまま、その場を離れた。	家人(93歳男性)が、鍋に野菜を入れ火をかけたままその場を離れ居間でテレビを観ていたところ、鍋が過熱され内容物が焦げて煙が発生。煙が部屋に充満し、居間に設置していた緊急通報システムの煙感知器が作動、管理会社を通じて消防覚知した。家人が警報音に気づき台所に戻り火を消して排煙を行った。火災には至らなかった。
31	5	14:31	夕方	戸建住宅	煙式	その他(調査中を含む。)	その他(居間・不明を含む)	その他(不明を含む。)	居住者	屋外に設置の融雪槽付近のアスファルト整地中にガスバーナーの火が壁体に入ったもの	発見者は居間でくつろいでいたところ、住宅用火災警報器の警報音で火災に気づいたもの。初期消火者は、屋外の散水栓を使用して消火に至った。その後、初期消火者の自宅から119番通報したものである。
32	6	14:06	夕方	戸建住宅	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	ガステーブルのごとくの上にあったゴミ箱が熱されたことにより、ゴミ箱の内部から煙が発生したものの。	発見及び通報者は、都市ガステーブルでやかんのお湯を沸かすために火を着けたところ、誤って他のごとくの火をかけてしまい、火をつけたごとくの上のせていたゴミ箱の内部から煙が発生し、住宅火災警報器が作動したため、自宅から119番通報をしたものである。